

橋本典明著
アスキー発行
197頁
1600円
ISBN : 4-7561-1213-7

ハッカーと国家との関係

『リアル・ハッカーズ』

今までにもいくつか、ハッカー本人やコンピュータ犯罪の顛末を描いたノンフィクションを紹介してきたが、本書は専門雑誌やコミュニティを主宰してきたハッカーや、過去に事件に関わったことのあるハッカーとのインタビューを通して、社会事情を描いている。現在話題になっている、ドイツのネオナチによる電子メールボックス規制の動きと過去の事件とは、新聞、雑誌では独立した事柄として扱われているが、過去と現在を結び見えない線がハッカーたちのインタビューから見えてくる。そこには、情報をめぐる国家組織の思惑が垣間みえる。ドイツやオランダではハッカー犯罪を防止する法律が整備され、第三者のシステムに侵入しただけで、データを改竄したり消去したりしなくても、罪に問われる。さらには、ネオナチ問題をきっかけにしてドイツの情報工学安全局（BSI）はメールボックス全般に規制をかけようとしたり、暗号化されたメッセ

ージの禁止をさせたりする動きをしている。もはや、対岸の火事ではない。日本でこのような規制がかからないように動き出す必要があるだろう。著者が日本で何者かに監視されていた状況が記されているプロローグは、国家による情報規制の動向をよりリアルに見せている。



インターネット社会のリアリティ

菊地宏明 Hiroaki Kikuchi

ネットワークビジネスの手法

『インターネットでデッカク儲けよう!!』

インターネットを活用してビジネスに活路を見いだそうとする本である。まさにビジネス本なのだが、その中でも優れた出来の本と言える。多くの本がインターネットの技術を背景にしたビジネスの可能性をアピールするだけで終わってしまい、広告ページを作るのは簡単なのか、インターネットで物を販売するのは容易かという疑問を抱いたまま読み終えることになる。本書では、どうすれば顧客となりうるイ

ンターネットビープルにホームページを読んでもらえるか、電子ショッピングの決済に使う方法は何かを考えている。「自力でHTMLを駆使してホームページを作成しよう」といったビジネス志向の人にとって無謀な話はない。さすがに、「無店舗販売でデッカク儲けよう!!」や「ディスカウント商法でデッカク儲けよう!!」といったシリーズを出してきた出版社である。これならビジネスを始められるかもしれないなあと感じられるツボが押さえられている。脱サラを考えていたり、個人で輸入雑貨のお店を開いてみたいと夢見ていると、フラフラとはまってしまうので怖い。インターネットのビジネスを前向きに現実的に捉えた本であるが、問題点についてはあまり触れられてないのが残念だ。

今泉大輔著
オーエス出版発行
220頁
1300円
ISBN : 4-87190-431-8



著作権法の将来像

『マルチメディアと著作権』

カラオケボックスはあつと言つ間に通信カラオケに変わっていった。豊富な曲数は、アニメソングを得意とするコンピュータ業界の人（なぜ多いのか未だ謎は究明されてない）をも満足させている。その通信カラオケで使われているデータはMIDIであり、Net64のISDN回線でセンターからダウンロードされてくることはご存じだろう。このとき、カラオケボックスでの演奏に対する演奏権と、ISDN回線でセンターから送信することに対する有線放送権の2つの著作権料が発生すると主張する徴収側と、演奏権のみを支払おうとする業者側との解釈の違いが問題になっているらしい。レーザーディスクのときは演

奏権を考えていればよかつたが、オンラインでデータ通信が始まったことにより新たな著作権問題が起きたのだ。わかっているようで全然知らない著作権について、現行法の説明や、CD-ROMなどのマルチメディアの出現によって法制度が受けた影響やその問題点、さらに今後はどのような対応が必要になるかという考察まで、本書は解説する。ホームページを作るにも著作権は関わってくるので、ぜひ知っておきたい。法学部教授の著書なので理系の人は苦手とするだろうが、努力すれば読み終えることもできる分量だろう。興味津々で読めるだ

中山信弘著
岩波書店発行
194頁
620円
ISBN : 4-00-430426-1



仕事につまったらクイズ

『多湖輝の超発想』

小学生の頃、新書版の『頭の体操』シリーズを学校に持ってきて楽しんでいるやつがいた。発想の転換を必要とするパズルを掲載し、解答と発想のヒントが書かれている本で、休憩時間になると数人で問題を出し合っていた。その著者がビジネスクイズとして出したのが本書である。企業の営業、総務、企画などの部署で発生する諸問題を取り上げ、どう発想するかを楽しむ本である。たとえば、『連立するインターネットプロバイダー。自社はNSPIXPとの高速なリンクが特徴だが「1.5Mbpsでリンクしています」といった直接的な内容を用いずに効果的に宣伝するコピーはないか?』のような問題があり、ページをめくるとその解答の一例があげられ、さらにページをめくる

と発想(本書で言うところの「超発想」)のキーポイントが解説される。先の問題は



多湖 輝/竹野輝之著
講談社発行
223頁
1300円
ISBN : 4-06-207934-8

基礎編
の問18を基
に考えてみたもの

だ。さあ、どうだろう、方法は見つかったらどうか。見つからない人は、本書の88ページを参考に読んでみよう。柔軟な発想を必要とする内容は今も変わらず、クイズとしては楽しめる。ちなみに、先の解答として「CU-SeeMeが快適に使えても彼女が見つかる保証はしません」ってどうだろう。単なる願望に過ぎないかもしれないけれど。

難解な専門用語を理解する

『インターネット用語辞典』

インターネットマガジンのバックナンバーを会社に並べておくと、いろんな人が読みにくる。インターネットに興味がある人が増えていることを物語っているのだが、知識としてはまだ浸透していない。ペラペラとページをめくり面白いページを見つけては読んでいたのだが、急に周りを見回して頼れる人を探している。雑誌レベルでも専門用語がふんだんに盛り込まれているからだ。そんなときは、本書をバックナンバーの傍らに置いてお

こう。本誌編集部がTom Faheyの『net.speak the internet directory』を監訳し、さらに日本の現状に合わせ、本誌連載「インターネット用語解説 - Terminology of Internet」コーナーの著者が連載原稿の項目を追加してでき上がった。約700もの用語と30ものコラムをのせ、本誌読破の手伝いをしている。辞典としては、サイズが大きいので、携帯には向かないが、内容は「インターネットエキスプ'96」「Java」までカバーしており、最新記事には対応しきれないが、総論的な記事などは十分にカバーしている。とは言うものの、完璧な辞典とはいえない。試しに「パシブスター」をひいてみれば、わかったようなわからないような曖昧な解説もあることに気づくだろう。



Tom Fahey / 金森國臣著
インターネットマガジン編集部監訳
インプレス発行
151頁
1480円
ISBN : 4-8443-4903-1

ハイテク社会の未来不安

『未来の終焉』

この前、インターネットを導入したら企業の生産効率が落ちたという英国発の記事を見つけた。ネットニュースなどを読み始めて、仕事をあきらめようかと思いついたのが原因らしい。それを理由にインターネット導入を取りやめる企業もあるらしいが、そのデメリット以上に効率的に仕事ができる環境だって得てきているはずだ。本書は、今日の文明のかげりを見だし、未来学者や社会学者の未来予測を検証している。

今までもてはやされた「加速度的に進歩する科学技術」や「明るい未来」の根拠が揺らいできている現状から、未来はどうなるのだろうかと考えている。確かに、技術革新は大躍進を遂げた時代ではなく停滞時期になっているかもしれないが、衰退期とするのはどうだろうか。英国発の記事を見たときと同じ気持ちになった。しかし、未来を楽観的に予測することよりも、学ぶべき事柄は多い。米国における賠償責任法、不法行為取締法が科学技術のイノベーションの



Jean Gimpel 著
三木 亨訳
産能大学出版部発行
224頁
1800円
ISBN : 4-382-05332-3

基盤を危うくしたり、現在のFDAではアスピリンやベニシリンも承認されないといった進歩を阻害する要因もあげられている。これを読んだとき、インターネット上のボルノ規制の問題が頭をよぎるのは、たぶん私だけではないだろう。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp